
民主主義の王子様アナザーストーリー翔編～一兆円やるから誰か俺に拒否権をくれ！～

和泉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

民主主義の王子様アナザーストーリー翔編〜一兆円やるから誰か俺に拒否権をくれ！〜

【Nコード】

N9262Y

【作者名】

和泉

【あらすじ】

美咲の弟。城ノ内翔のアナザーストーリーです。

お金持ちの御曹司のはずなのに不幸体質で気弱。よく言う言葉は「ごめんなさい。」人生謝ってばかりのさえない少年が神奈川県立海大付属中学に転校してきた！

彼がテニス部に入るまでのお話。短め連載です。

転校先は神奈川県（前書き）

はじめまして和泉と申します。

テニスの王子様で連載している「民主主義の王子様」のもう一つの物語です。

翔には愛着があり、彼の世界観もちゃんとあるので連載を始めました。

同い年の赤也に振り回され、先輩のジャッカルと地味に仲良くなりたり彼も彼なりに大変な思いをしています。翔、がんばれ！

転校先は神奈川県

俺は御曹司だそうだ。

しかしお家柄だけは異常に良くて 俺は成績は至って平凡。容姿は中の下。運動・・・テニス以外微妙。趣味はバイオリン。

それに反して俺の兄ちゃんは 成績は美術以外は異常 容姿、背は低いが美少年。 趣味はバイオリン。

同じ兄弟でも明らかに格が違う。

生まれつき帝王学が身につけている兄に一家を背負わせるようで家族も俺に期待なんてしてくれない。

良いように言えばのびのび出来る。 そう思って日本に来た。

けど兄ちゃんが「身分を隠せ」とか「俺だけ関西に行く」とワガママ言っただ俺は神奈川の私立中学校に行くことになった。

テニスなんて小さい頃からやってきたから中学こそは興味のある吹奏楽部に行きたいな と思う。

「翔お坊ちやま。ここが私立立海大付属中学校です。」

「あ、どうもどうも。」
運転手にペコペコ頭を下げ、ブランド車から降りる。

美咲に「金持ちの素振りは一切するな」と散々言われていたので一定の距離で車からおり 学校まで歩いていく。

海が近い学校。潮風が心地よかった。

深緑の制服。模範生徒のようにきちつと制服を着ている。

大勢の立海生が門をくぐる。翔も周りと同じように門をくぐるうとした。すると

「だーかーらー！ビックスリーだかなんだか知らねーけど所詮中学生だろ！」

三人まとめてぶつ潰してやる！」

「分かったから落ち着けて赤也。」

「ふふつ。でも今日は校庭の整備が放課後からあつてテニス部は中止だよ。」

明日にならないとね。」

「ちえー・・・んだよ・・・」

黒髪もじやもじや。前髪は短くうるさい少年。

校門付近で騒いでいたので思わず凝視してしまった。

「・・・・・・・・・・」

日本の中学生はこういうものなのか・・・と驚いてしまつ。

「あ？なんだよコッチ見てんじゃねーぞ！」

「えっ？えっ？あ、ごごごめん！」

目が合った。翔は頭を下げる。

「こーら赤也。そうやってカッカしない。真田に言っよ？ふふっ。」

「それは勘弁してくださいよ！幸村さん。」

「ところでお前は転校生か？俺のデータにはない顔だ。」

黒髪でさっぱりとした髪型、目は細く、背は高い。翔に歩み寄った。

翔も背はまあまあ高い方だったが彼の雰囲気のにまれ思わず後ずさりする。

「えええつと。俺は転校生です……。城ノ内翔って言って一応1

- B に行くつもりです。」

「1 - B？ホントか？」

いきなりモジャモジャの少年が翔に食いついた。ひいっと小声を出し頷く。

「俺と同じクラスじゃねーか。早く言えよー。俺は切原赤也。ここ
のテニス部のエースだ！」

「テニス部・・・？」

目をぱちくりして聞き返す。

「テニス部は有名なんだぜ。なんだ翔は知らなかったのかよ。」

いきなり呼び捨てにされ驚く。

「俺はつい最近までイギリスに居たから・・・わかんないんだよね。」

「イギリス？すっげ。イギリス語とか喋れんのか？」

「・・・はあ。」

「・・・イギリス？」

「ん？どうしたの連二」

「いや、なんでもない・・・。城ノ内・・・イギリス。どこかで聞いたような・・・」

連二がそうつぶやくと同時にチャイムが鳴る。赤也は翔の腕をひっぱった。ニコリと笑う。

「来いよ！教室に案内するぜ！」

「ええっ・・・？じゃあお願い切原君。」

「赤也でいいぜ！つてことで幸村さんと柳さん！また昼飯で会いましょうー！」

ぶんぶんと手を振って校舎に急いで入る。下駄箱につくと赤也は自分の靴箱に靴を入れたが翔はそばにある開きの下駄箱にいれた。

あまりにダッシュするものだから教師に「こら赤也！廊下は走るな！」と一喝されていた。

一階の教室が一年生。B組の教室のドアを開ける。

教室にいた生徒が一斉に翔をみた。しかし並の容姿で女子はすぐそつぽを向いた。

これが兄ちゃんだったらな・・・と自分の容姿を少し恨む。

赤也は翔の手をひっぱると教卓の前にいった。

「コイツは今日から1 - Bの転校生の城ノ内翔だ！」

「えっ・・・えええ！？」

翔は思わず悲鳴をあげた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9262y/>

民主主義の王子様アナザーストーリー翔編～一兆円やるから誰か俺に拒否権を

2011年11月27日19時48分発行